

教点連ニュース 第4号 No.8

平成21年2月5日

・20年度の実態調査がまとまる

牟田口先生が担当して下さった実態調査がまとまりましたので、同封いたします。

・「点字教科書の普及に関する意見交換会」始まる

日時：1月19日（月）午前11時30分～1時

場所：文科省会議室

内容：あくまでも意見交換会ということで、各委員がさまざまなことについて意見を述べました。したがって、何かの結論が出るとか方向が決まるとかということではありませんでした。また、座長がいて、その人がまとめていくということではなく、三輪課長補佐が質問したり、発言を誘導したりするという形で進められました。意見交換会という形で、あと何回開くのかとか、また、点字教科書の製作に関して結論を出す会を持つのかということも、全く話し合われませんでした。次回をできるだけ早く開いてもらい、この意見交換会の方向性について確認しなければなりません。

出席者：太田裕子	東京都教育庁指導部主任指導主事
香川邦生	健康科学大学教授
原田早苗	筑波大附属視覚特別支援学校教諭
牟田口辰己	広島大学大学院教育学准教授
加藤俊和	理事
高橋 実	理事
田中徹二	理事長
池尻和良	文科省特別支援教育課教育調査官
矢崎雅之	文科省教育局教科書課課長補佐
三輪善英	文科省教育局教科書課課長補佐

・平成20年度第2回セミナー報告

平成20年度「教点連第2回セミナー」が、2008年11月30日の13時から16時半まで、愛知県名古屋市のIMYホールで開かれた。今回は、三名の講師にお願いし、盲学校における点字指導の実際や盲学校が地域で果たしている役割、触読者にとってわかりやすい触図作成のポイント、パソコンでエーデルを使っての触図作成の技術について学んだ。会場には教点連会員を中心に地域の点訳ボランティアなど八十余名の参加者が集まり盛況であった。

1. 『点字の力を養う（点字力を高める）指導』

（愛知県立名古屋盲学校教諭・佐藤登紀子氏）

国語科の教員として、名古屋盲学校に30年以上勤務している。子どもたちの現状（喜んでいること、困っていること、わかりやすい点字など）について伝えられる。墨字を単純に点字置き換えることが点訳ではない。点字の力とは、点字を読み書きする技能である。点字で学習する技術を身につけること。的確に表現し、学ぶことができる生徒を育てたい。

盲学校の点字指導では、点字を学ぶにあたって、まずしなければならないことがある。大きさ・重さ・長さなどの物の属性、位置、方向を身体で知る学習。そして、手の動きに慣れるための教材を使い手指の滑らかな動作を身につける。上手に触って上手に点字を読める基礎作りが大切。読みはできるだけ両手で読むこと、書きは点字タイプライターで始める。名古屋盲では点字検定を行っている。書きは2分間でどれくらい書けるか（めの字書き、50音書き、点写、聴写）。読みは1分間でどれくらい読めるか（早読み）。理想的には520字（600ます）、普通学習するには300字くらいは読める早さが必要。一番大切なのは、どんなレイアウトで、どのように書かれているかを触ってわかる力。そのためには読みやすい資料が望まれる。書体、縦書き、横書きなど日本語には多様な側面がある。点字で学びながら、正しい漢字・仮名混じり文を書けることが目標。点字は見比べることがしにくい、手で触られる範囲が限られている、ゆえに教材に工夫がいる。

地域の学校で学んでいる児童・生徒は十数名いるが、そのうち点字使用者は、小学生が一人、中学生が三人である。地域の学校と盲学校との比較では、前者では学級定員が多く友達も多い。したがって、話題も豊富であるが危険な（苛めみたい）こともある。アシスタント（補助教員、介助員）がつく。後者では、落ち着いた環境で安全だが、友達が少なく補助教材も少ない。専門的な知識をもった教員が自立活動（点字、歩行、パソコンなどの指導）を行う。盲学校の方が授業がゆっくり進むので、質問ができて良い、と言った生徒もいた。

盲学校のセンター的な機能として（1）地域の学校への訪問相談、教員への現職研修、（2）盲学校を訪ねてもらっての研修会、夏休み研修講座などを実施している。

盲学校で学んでも、地域の学校で学んでも、子どもが何処にいても専門的な支援が受けられるようにすることが大事であると考え。愛知県でも公立高校を点字受験できるようになった。一つの成果だと思う。

2. 理科触図解説—見本図による解説「理科点図のチェックポイント」

（筑波技術大学・長岡英司氏）

事前に4種類の理科図（物理2枚・化学・生物それぞれ1枚ずつ）を教点連の会員に課題図として提示した。それに対し、予想をはるかに越える31枚もの作図が寄せられた。

長岡さんは沢山の触図作成に携わってこられた。ご自身触読者でもある。その立場から、実際にエーデルで描かれた触図を1枚ずつ丁寧にチェックし、批評をいただいた。

チェックのポイントは以下のようなものである。

- イ. 全体の適否…大きさ、縦横のバランス、強調、簡略化と省略、デフォルメ、表現の統一
 - ロ. 対象物の表現の適否…形状、大きさ、配置、点種、線種、面パターンの種類、点・線・面の組み合わせと隙間
 - ハ. 点字の挿入の要否と適否、…説明文、語や記号、表記と表現、位置、図形要素との間隔
- ニ. 凡例の要否と適否…位置、パターンの大きさや向き、説明の表現と表記
- ホ. 線の挿入の要否と適否…引出し線、補助線、線種

これらのチェックすべきポイントをわかりやすく、どのような触図が良いかについて、具体的に説明を受けた。かなり厳しい指摘もあったが、触図はただ元図を忠実に再現すれば良いと言うものではなく、何が重要であるかを判断した上で作成せねばならないことが理解された。

3. パソコンによって描く触図（山本宗雄氏）

山本さんには、エーデルを使って実際に触図を作成するにはどのようにするかパソコンを使いながら教えていただいた。下図の作成、実際の作図、エーデルで作図する際の留意点、作図上のヒント、BESのグラフィックと比較してエーデルを使用する利点、これらのことについてパソコンを操作しながら懇切丁寧な説明があった。これからエーデルを使おうとしている方には、点訳グループ「麦」さんの「はじめてのエーデル」が、わかりやすいということで、おすすめいただいた。

以上、実に有意義なセミナーであった。

・平成20年度第3回理事会開催記録

日時：平成20年11月30日午前11時～12時25分

場所：IMYホール（名古屋市千種区）

出席者（敬称略）：古谷、近藤、岩井、高橋（秀）、込山、高橋（実）、加藤、長岡、野々村、田中（以上、理事）、牟田口、三上（以上、監事）の全員

議長：高橋（秀）

議事録署名人：岩井副理事長、長岡理事

議題：

1. 平成20年度第4回理事会

日時：3月14日（土）午後1時～4時

場所：日本点字図書館会議室

議題：総会对策、セミナーの内容、点字教科書の普及に関する意見交換会の検討

2. 平成 21 年度総会、第 1 回セミナー、第 1 回理事会

日時：平成 21 年 5 月 30 日午前 11 時(総会)、同午後 1 時(セミナー)、同 12 時
(理事会)

場所：日本点字図書館 3 階多目的室、会議室

3. 点字教科書の普及に関する意見交換会への対応

- (1) 教点連としては、点字教科書の製作は教科書発行社に責任をもたせる。
- (2) 点字出版所が製作を担当していくことを基本とする。
- (3) 当面は補いとしてボランティア団体が担うこともやむを得ないが、点字出版所(または点字図書館)を製作担当施設とし、各ボランティア団体は点字出版所(または点字図書館)と連携して製作を行う形となるよう協力を求める。
- (4) ボランティアグループには、小中学校児童・生徒用教科書政策の協力に加えて、副教材等の制作への支援を求めるとともに、保障制度が未確立の高校用教科書制作への貢献をお願いする。

4. 実態調査の実施

昨年度の調査に補正をしてもらう程度の調査を実施する。

発行日：平成 21 年 2 月 5 日

発行所：NPO 法人全国視覚障害児童・生徒用教科書点訳連絡会

発行人：田中徹二

連絡先：(社福) 日本点字図書館 担当：田中・松本

〒169-8586 新宿区高田馬場 1-23-4

Tel：(03)3209-0241 Fax：(03)3204-5641

E-mail：matsumotom@nittento.or.jp

振込口座番号：0180-7-262151